



手織工房 おおしろ



染め・織り・洗濯までの一貫した工程をこなしている工房。若い職人達が注文に応じて手作業で多彩な製品を生産しています。敷地内に、糸干し場、洗濯場が配置され、適度な光と風が吹き抜ける工房です。



水タンクの ある民家

1950年代に建てられた戦後文化を忠実に伝えている民家。県民文化遺産にしたいほど貴重な建築物。セメント瓦屋根にかかる樋は、老朽化したため、プラスチック製に取り替えられたが、家屋も水タンクも建築当時のままです。



夜警団 屋跡

こちらは1950年代に建てられた防犯上の小屋の跡。字照屋は交通の便に優れていて、泥棒や不審者も多く、夜間の警備をするために、若者が集まる場所として建てられたそう。現在も跡地の花壇は、地域住民の「美ら花会」の皆様によって綺麗に整備されています。



盛んな 伝統芸能

字照屋には、舞方棒をはじめ様々な伝統芸能が根強く残っています。照屋農村コミュニティーセンターの近くには、照屋の伝統芸能がたくさんデザインされた自動販売機が設置されています。



作成：南風原平和ガイドの会(2011年)
改訂：一般社団法人南風原町観光協会(2020年)
改訂：一般社団法人南風原町観光協会(2024年)
住所：沖縄県南風原町字本部158
電話：098-851-7273 FAX：098-851-7109
メール：chiiki-machidukuri@haebaru-kankou.jp
HP: <https://www.haebaru-kankou.jp>



根強く伝統芸能が継承される

南風原町の

照屋を歩く



一般社団法人 南風原町観光協会



1 デームイ毛とシーサー

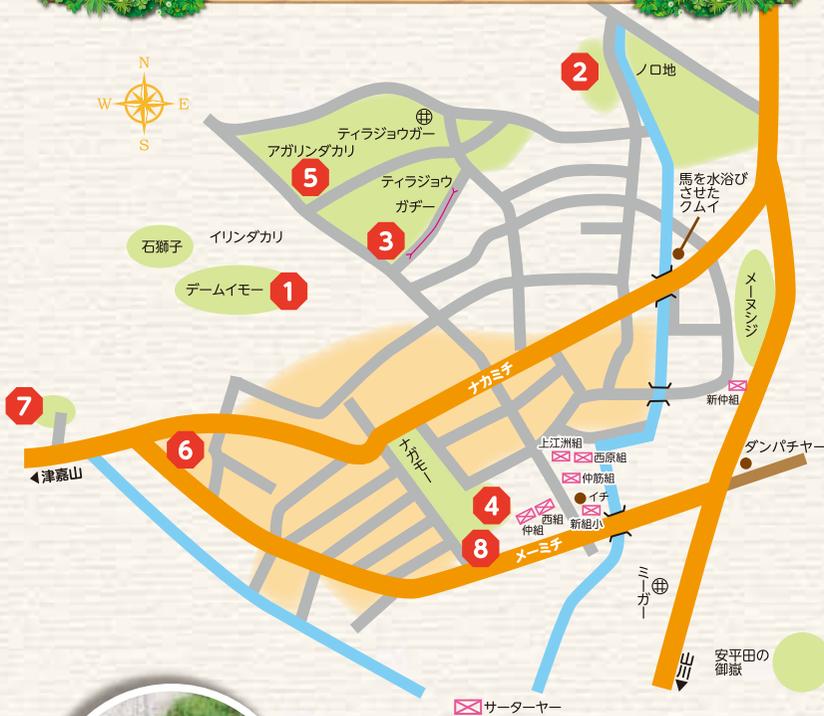
むかしむかし、琉球の戦国時代にノロシ(狼煙)台や見張り台として使用されていたと思われるのがデームイです。

小高い丘の頂上にはシーサーとウタキがあり、今でも信仰の場所として人々が訪れています。

シーサーはデームイ毛の北西側にありましたが、学校の建設のため現在地に移されました。東のシーサーより、こぶりで穏やかな顔をしています。[町有形民俗文化財]

戦前の照屋の地図

(「60年前の南風原」南風原町史編集委員会 1994年(平成6年)発行)



シーサーは、ムラの入口にフーチゲシ(邪気返し)の目的で設置されています。

となりの字本部が火の山と恐れられていた八重瀬岳へ向けてシーサーを設置し、それが結果的に照屋に向く形になり、照屋集落は対抗して本部に向けて置いたと言われています。

[町有形民俗文化財]

2 アガリ 東のシーサー



3 テルヤマンドウヌチ 照屋ノロ殿内

照屋を守護している神々が祀られている清涼な所。昭和55年木造からコンクリート造りに改築しました

4 ナガ毛とウタキ かつてサーターヤ跡



三体の神様が仲良く祀られ、ナガ毛を見守っています。下の広場には昔サーターヤ(製糖工場)が門中ごとに建ち並んで黒砂糖の生産に励んでいました。サーターヤ跡碑の下には「力石」が埋まっています。



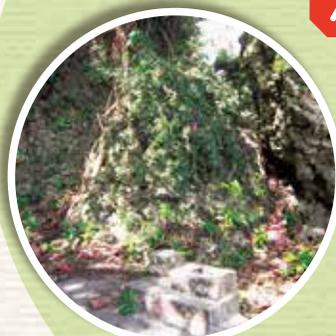
5 ユンヌカー

照屋には井戸が少なく、その中でユンヌカーは水量が豊富で、正月の若水はここから汲まれました。



6 イシジャーガー

集落の斜面に人家が増え、大正時代の旱魃時に石ころばかりの原に井戸を掘り飲料水を確保しましたが、近年のアパート建設時に埋められました。井戸の跡にはウコール(香炉)を置き水神への感謝を捧げています。



7 イシジャーヌシー

安平田子が首里王府に攻められ傷つき、この場所まで逃げてきたが逃げ切れず岩と岩の間で息絶えたと言われています。この場所を津嘉山集落ではチマダヌシー、照屋集落ではイシジャーヌシーと呼んでおり、現在も子孫がお祀りをしています。



8 トウンヌシチャ

公民館の裏にあるトウンヌシチャ(殿の下)は、首里王府に亡ぼされた安平田子の次女眞勢が、浦添から仲間大主を婿養子に迎えて、結婚後に住んでいた住居跡です。

